

2017年度の事業報告書
2017年4月1日から2018年3月31日まで

特定非営利活動法人フードバンク岩手

1 事業の成果

(1) フードバンク事業、社会参加推進事業

◆実施内容

- ・生活自立支援法に基づく岩手県内の相談機関 23ヶ所うち 16 団体(盛岡市社協含む)。食料支援できるが要請がなかった機関は除く)に提供した。その他、相談機関や支援機関 14 団体(NPO6 団体、学習支援・こども支援 4 団体、役場 4 市町)、福祉施設 5 施設、フードバンク拠点 5 団体、計 40ヶ所へ提供
- ・フードバンク岩手への直接相談は 17 件(電話 15 件、フェイスブック 2 件)あり、関係機関へおつなぎした
- ・フードドライブは公開型で新たに岩手県内初となる商業施設にフードバンクポストを設置、また盛岡市役所 2ヶ所目となる保健所内こども未来課にポストを設置。イベント型では学生主体のもと、岩手銀行の労働組合バレーボール大会(県内の支店から参加)や滝沢市のスーパーなどでフードバンクポストを設置しフードドライブ活動を岩手県内へ広くアピールできた。
- ・みちのくコカ・コーラボトリング株式会社より継続的な寄付をいただく事となった。これは東北初の試みである。
- ・社会参加推進事業については、こども支援プロジェクトの梱包作業等をきっかけに学校以外で個人での参加をする学生が増え将来の担い手を増やす事ができた。一般ボランティアは長期にわたり定期的に参加する人数が増えた。また、フードバンク岩手のボランティアをきっかけに他ボランティア活動参加となった。
- ・一般、学生ボランティア参加人数 述べ 672 人
- ・寄贈・提供は以下の表のとおり(2017年4月～2018年3月)

	ご寄贈いただきました		提供しました	
	件数	重量 (kg)	世帯数	重量 (kg)
2017年4月	44	2019.5	96	1468.1
5月	40	452.5	110	735.1
6月	78	1200.5	93	447.5
7月	88	2343.4	366	4546.5
8月	100	1393.5	158	671.7
9月	61	942.5	62	509.1
10月	83	1322.2	51	459.7
11月	114	2020.3	65	539.2
12月	134	4071.6	340	4316.5
2018年1月	73	2456.4	44	620.0
2月	53	1215.3	66	1028.8
3月	67	1407.1	58	1426.1
合計	935	20844.8	1509	16768.3

◆成果

- ・寄付食品・寄付金の増加、寄付団体・企業の増加。

◆課題

- ・フードバンク事業では、19か所(2017年度新規 11か所)場所でフードバンクポストを設置した事により、色々な食品が集まるようになったが必要とされる食品を集める工夫が引き続き必要である。
- 寄付金は単発の寄付者は増えたものの、継続的な寄付者は減少、継続的な寄付となるようにインターネットを利用しない方への継続的な寄付につなげる事が重要であり、引き続き新規の寄付者・賛助会員を増やす事が課題。社会参加推進事業では活動を通しボランティアマニュアルを作成したい。

(2) 困窮者支援事業 子ども支援プロジェクト

◆実施内容

- ・夏、冬休み中の子どもの健康面や精神面における不安を解消すると同時に悩みごとを抱えながらも、支援が行き届いていない小中学生のいる世帯が抱えている課題や悩みを早期発見し、ケースによってはアウトリーチも行い相談機関等々の社会福祉資源に早期につなぎ、生活が困窮しきる前に解決を図り重篤化を防ぐことを目的とし事業を行った。
- ・緊急フードドライブなどで集まった食料品の検品や梱包作業には、市民ボランティアや学生ボランティア参加で行った。若者が将来の担い手として、子どもの貧困問題や身近な地域課題の理解を深める大切である。したがって作業前にこどもの貧困についての説明会を行った。

◆成果

- ・多くの世帯へ社会福祉資源の案内チラシを食品と共に同封し相談先を知ってもらい、早期の相談につながった。また、学校と協力して申請書を配布でき協力関係を築けることとなった。

◆課題

- ・回を増すごとに各市町の申込世帯数は増えているが、初回募集・再募集ともに申請書の配布数に対する申込数増、早期相談支援につながる事を次年度も課題とし、民生委員から対象者へ直接渡される申請書がツールとなり各地域での関係づくりが出来てきているので、31年度にある民生委員の改選期も視野にいれ、困っている世帯がもれる事無く支援につながる事ができるために引き続きこども支援プロジェクトを行う。

(3) 被災3県のフードバンクネットワークの構築事業(宮城、福島、岩手)

◆実施内容

- ・東北の中心であるふうどばんく東北AGAINを専門家派遣や勉強会を通じ再構築に至った。また、ふうどばんく東北AGAINの所在地である富谷市へ宮城県初であるフードバンクBOXを富谷市役所内へ設置、仙台市役所でも設置予定となっている。
- ・福島県内にフードバンク活動を行う団体が定着することが今まではできなかったが、福島の2団体(ザ・ピープル、福島やさしい畑)の立ち上げ支援を行い、定着のみならず被災3県のネットワーク構築実現に向けて全国に例がない各県の連携を行えるようになってきており、全国でもモデルとなるようなネットワーク構築の第一歩となった。
- ・勉強会 2回開催(34名参加)
- ・フードバンク定例会 2回開催(34名参加)
- ・専門講師派遣講習会 3回開催(11名参加)

◆成果

- ・勉強会と定例会を通じて、東北の現状を改めて知る事ができ各フードバンクに持ち帰り参考にする事ができた。また、各団体と関係を築く事ができ福島や宮城からの相談が入った際はおつなぎ先や相談先を聞く事ができ、顔の見える連携関係を築くことにつながった。

◆課題

- ・ネットワークを通じて各自の能力を発揮するためにも持っている知識やスキルをお互い学びあい相乗効果となるよう、現在構築できているネットワーク組織をさらに強めていくために継続的に活動したい

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
フードバンク事業	市民や生産者に食品の提供をお願いし、また賞味期限内でまだ食べられるのに印字ミスや箱の破損などで販売できない食品を企業に募集。いただいた食料を生活困窮者や児童・障がい者施設、生活困窮者自立支援相談事業所などに無償で提供する事業	常時	盛岡市など	4名	約1000世帯	7,260
困窮者支援事業	夏、冬休み中の子どもの健康面や精神面における不安を解消すると同時に悩みごとを抱えながらも、支援が行き届いていない小中学生のいる世帯が抱えている課題や悩みを早期発見し、ケースによってはアウトリーチも行い相談機関等々の社会福祉資源に早期につなぎ	夏 冬 休み、 冬 休 み	盛岡市 など	4名	子どもを擁する世帯	4,675
就労継続、就労移行支援事業	実施なし					0
社会参加推進事業	寄付された食品の仕分けや、フードドライブなどをきっかけに困窮者支援に市民の参加を促進する事業	1日から常時	当事務所	672名		821
その他の付帯する事業	実施なし					0

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
実施なし					